

## 新型コロナによる科学と社会の課題を 学術誌『科学技術コミュニケーション』で特集

～4月から迅速に順次公開し、今後も継続予定～

### 【概要】

COVID-19の世界的大流行に鑑み、学術誌『科学技術コミュニケーション (JJSC: Japanese Journal of Science Communication)』（編集長：北海道大学大学院理学研究院准教授 川本思心）は科学技術コミュニケーションの観点に則った事態の把握、分析、提言や解決に資することを目的に、緊急小特集「新型コロナウイルスの世界的大流行と科学技術コミュニケーション」を4月から企画・実施しています。投稿原稿は迅速に査読を行い、北海道大学の機関リポジトリである「北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)」で順次公開してきました。このたび第27号掲載分として刊行したため、改めて発表します（ウェブサイト <http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/jjsc/>）。

### 【緊急小特集企画に至った経緯～今、改めて「科学技術コミュニケーション」が注目される理由～】

感染症対策には、ウイルス学、疫学、臨床医学から公共政策、倫理学、メディアコミュニケーションにいたるまで、きわめて多岐にわたる専門性と、社会的意思決定のための議論が求められます。その議論には、科学者と政策決定者の役割分担と責任、プライバシーや差別といった倫理的・法的・社会的課題なども含まれます。

こうした背景から、改めて「科学技術コミュニケーション」が注目されています。感染症の世界的大流行は、単にウイルスによってヒトの身体に引き起こされる自然現象としてだけではなく、政治・経済・文化・安全保障等、人間社会全体に影響を及ぼす社会的な現象として捉えなければなりません。こういった多岐に渡る観点から問題を整理・発信し、社会的な議論を喚起することが、科学技術コミュニケーションの役割です。そのために本緊急小特集を企画しました。

### 【公開された論考の内容と反応】

これまでに以下の6本の論考を公開しました。キーワードは「記事」「サイエンスライティング」「検査数」「システム思考」「ノルウェー」「クライシス・コミュニケーション」「知的な素人」「社会的公正」「プライバシー」「積極的疫学調査」「倫理的・法的・社会的課題」「博物館教育」「オンラインメディア」等となっています。北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP) でダウンロードが可能です。これまでの本誌掲載論考に比べても短期間で多数がダウンロードされており、関心の高さが伺えます。

1. 序文：緊急小特集 新型コロナウイルス感染症の世界的大流行と科学技術コミュニケーション (川本思心 著・4月15日公開・8月21日時点のダウンロード数 2,222 件)
2. 寄稿：「新型コロナウイルスを考える」を考える (内村直之 著・4月15日公開・同 7,561 件)
3. システム思考による新型コロナウイルス感染症対策の可視化～政府・専門家会議が検査を増やすことができなかった「理由」～ (調 麻佐志 他 著・4月17日公開・同 4,168 件)

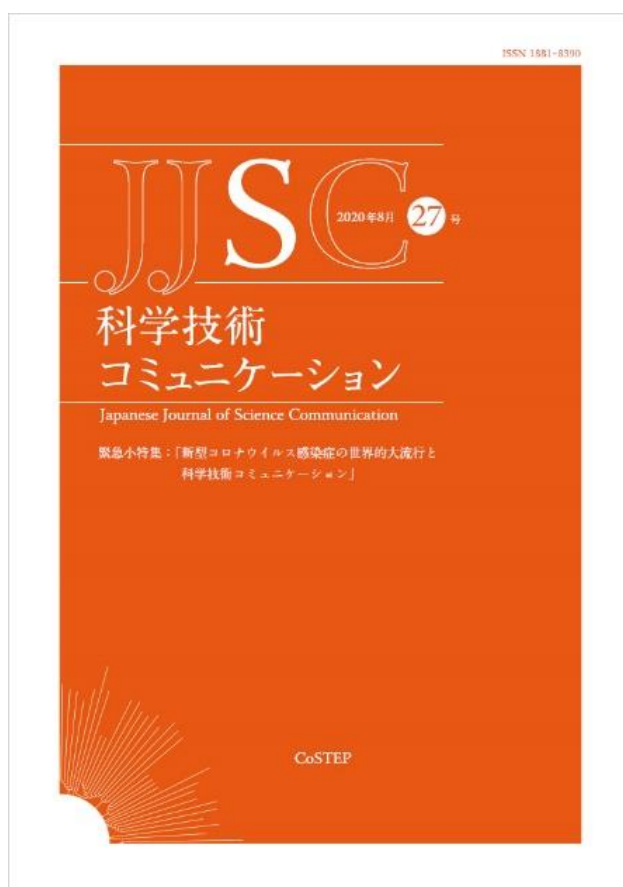
4. 見えざる王冠～ノルウェーにおける新型コロナウイルスをめぐるパブリック・コミュニケーション～（吉澤 剛 著・4月28日公開・同2,080件）
5. 新型コロナウイルス感染症抑制のために個人の行動を追跡することの是非～コンタクト・トレーシングアプリの社会実装に関する対話の場のための覚書～（種村 剛 著・6月9日公開・同1,509件）
6. COVID-19 感染拡大下における博物館施設のオンライン発信の傾向と分析（室井宏仁 他 著・8月24日公開）※本稿のみ第28号先行公開分

### 【掲載誌と企画の概要】

『科学技術コミュニケーション』は日本初の科学技術コミュニケーション学術誌として2007年に発刊されました。科学技術コミュニケーションとオープン教育の理念に則った、誰でも無料で投稿・閲覧できる査読付オープンジャーナルです。編集委員会は、北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）の教員を中心に、学内外の専門家から構成されています。年2回発行し、過去の号を含めて全てがHUSCAPでダウンロード可能で、冊子体も発行しています。

今回の緊急小特集は、学術誌としての手続きに則ったうえで可能な限り迅速に社会に公開することを目指しました。そのため、査読は通常のプロセスで行いましたが、査読者による査読期間や投稿者による修正期間を迅速化しました。本緊急小特集は第28号でも継続します。投稿は随時受け付け、受理されしだいHUSCAPで公開します。冊子体は12月末頃に発行予定です。受付を終了する場合はJJSCウェブサイトで告知します。

右図)『科学技術コミュニケーション』第27号の表紙。SARS-CoV-2の遺伝子系統樹と、ウイルス名の語源となった太陽コロナをイメージしてデザイン。



### お問い合わせ先

科学技術コミュニケーション編集委員会

（北海道大学高等教育推進機構オープンエデュケーションセンター科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）内）

編集委員長 北海道大学大学院理学研究院 准教授 川本思心（かわもとししん）

T E L 011-706-5320 F A X 011-706-5320 メール jjsc@costep.hucc.hokudai.ac.jp

U R L <http://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/jjsc/>

### 配信元

北海道大学総務企画部広報課（〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目）

T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール kouhou@jimu.hokudai.ac.jp